

2 他誌発表

新潟県における放射能調査

笠原貢, 昆信芳, 山崎興樹, 加藤健二, 藤巻広司, 丸田文之, 坂上央存, 殿内重政, 鈴木博之
前年度に引き続き, 平成 15 年度に実施した文部科学省委託の環境放射能水準調査及び放射線監視交付金による原子力発電所周辺の環境放射線監視調査について, 調査結果の概要を報告した。

調査結果は次のとおりである。

1 全ベータ放射能

定時降水等について測定したが, 各試料とも例年と同レベルであった。

2 空間線量率

柏崎刈羽原子力発電所周辺地域及び新潟市において測定したが, 各地点とも例年と同レベルであった。

3 核種分析

大気浮遊じん等について, ゲルマニウム半導体検出器により機器分析した結果, 海水等に ^{137}Cs を検出した。また, 放射化学分析により ^{90}Sr , ^3H , $^{239+240}\text{Pu}$ を検出した。これら検出された人工放射性核種は, いずれも例年と同レベルであった。

第 46 回環境放射能調査研究成果論文抄録集 (平成 15 年度), 173 (2004)。

環境放射線の変動要因に関する研究

山崎興樹

環境放射線には, モニタリングの対象である原子力施設由来の放射線のほか, 大地や大気中に含まれる天然放射性核種からの放射線, 宇宙線, 過去の核実験等により地球規模で拡散・沈着した人工放射性核種からの放射線等が含まれる。これらの放射線は, エネルギー範囲や方向分布が異なるとともに, 放射線量が空間的・時間的に変化する等複雑な様相を示している。また, 日本海側積雪寒冷地域においては, 降水や積雪のほか, 冬季雷など環境放射線の変動に寄与する特有の自然要因が存在し, 原子力施設の寄与を評価するためには, これらの影響を明らかにしておくことが重要である。本報告は, 原子力発電所周辺地域で測定した空気吸収線量データの解析を中心に, 環境放射線の変動と日本海側積雪寒冷地域特有の環境要因との関連について考察した結果をまとめた博士論文の要録である。

分析化学, 58, 1367-1368 (2004)。

3 学会等発表

冬季雷による空間線量率上昇現象の特徴：

山崎興樹, 大高敏裕 (新潟県保健環境科学研究所), 藤巻広司, 殿内重政, 橋本哲夫 (新潟大学理学部)

第 41 回理工学における同位元素・放射線研究発表会, 東京都新宿区, 日本青年館, 平成 16 年 7 月 7 日 (第 41 回理工学における同位元素・放射線研究発表会要旨集, p.157, 2004)。

柏崎刈羽地域の放射性核種分布調査：

坂上央存, 丸田文之, 藤巻広司, 殿内重政, 橋本哲夫 (新潟大学理学部)

2004 日本放射化学会年会・第 48 回放射化学討論会, 東京都文京区, 東京大学, 平成 16 年 10 月 28 日 (J. Nucl. Radiochem. Sci. 5 Supplement (2004 日本放射化学会年会・第 48 回放射化学討論会研究発表要旨集), p.124, 2004)。

日本のいくつかの地域における大気中 ^7Be 濃度の季節変動：

石川陽一, 高橋正弘 (宮城県原子力センター), 橋本和子 (茨城県公害技術センター), 山崎興樹, 鈴木博之 (新潟県放射線監視センター), 檜崎幸範 (福岡県保健環境研究所)

第6回「環境放射能」研究会，つくば市，高エネルギー加速器研究機構，平成17年3月9日（Proceedings of the Sixth Workshop on Environmental Radioactivity, p.77, 2005）.

柏崎刈羽地域における陸土・陸水中のCs-137分布調査：

坂上央存，丸田文之，藤巻広司，殿内重政，橋本哲夫（新潟大学理学部）

第6回「環境放射能」研究会，つくば市，高エネルギー加速器研究機構，平成17年3月9日（第6回「環境放射能」研究会要旨論文集，2005）.